

企画展示のご紹介

あき な むし
秋の鳴く虫

- 期間：9月9日（土）～24日（日）
- 内容：スズムシ、マツムシ、クツワムシなど
あき よる みみ たの 秋の夜に耳を楽しませてくれる虫たちの姿や
こえ かんじょう 声を鑑賞できます。

※1ページ目にスズムシの写真があります。



マツムシ

てん
バッタ展

- 期間：10月7日（土）～11月5日（日）
- 内容：トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、
オンバッタ、マミジロノミバッタなど広島県に
せいそく ひろしまけん 生息するバッタを展示します。さらに、
ひょうほん 標本や
ふしき せいたい かいせつ パネルでバッタの不思議な生態を解説します。

※2 ページ目にマミジロノミバッタの写真があります。



トノサマバッタ

イベント案内

9月	10日（日）	虫講座「秋の鳴く虫」	13:30～14:30
	16日（土）	虫さがし「秋の昆虫」	10:30～11:30
	24日（日）	森の音楽会	13:30～14:30
10月	7日（土）	バックヤードガイド「樹木園ツアー」	13:30～14:30
	14日（土）	みどりとむし講座「ドングリと虫」	10:30～11:30
	22日（日）	虫講座「バッタのはなし」	13:30～14:30
11月	29日（日）	ハロウィンクイズラリー	10:00～11:30 / 13:00～14:30
	4日（土）	バックヤードガイド「飼育室ツアー」	13:30～14:30
	5日（日）	大人のための昆虫講座「広島県のチョウ」	13:30～14:30
	19日（日）	森のクラフト教室	10:00～11:30 / 13:00～14:30
	26日（日）	森のクラフト教室	10:00～11:30 / 13:00～14:30

- ※1. 森の音楽会(9/24)、ハロウィンクイズラリー(10/29)、森のクラフト教室(11/19、26)以外は、すべて「事前申し込み制」です。
- ※2. 「事前申し込み制」イベントの募集定員数は、各回とも30名程度。応募多数の場合は抽選となります。
- ※3. 申し込み方法、締切日等の詳細につきましては、[こんちゅう館のホームページ](http://www.hiro-kon.jp/)をご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.14 秋号 2023年9月1日

編集/発行 広島市森林公園こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ヶ丸 10173 番地

TEL. (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

こんちゅう館 News

ひろこん秋の企画展「秋の鳴く虫」 企画展のスター

スズムシ *Meloimorpha japonica*

バッタ目 スズムシ科



スズムシなどコオロギ・キリギリスの仲間は、前ばねにある「やすり器」と「まさつ器」をこすり合わせて音を出しています。

スズムシは、秋の鳴く虫の代表です。「リーンリーン」と美しく鳴き、ペットとして飼育・販売もされています。スズムシを飼育する文化は、江戸時代にはあったとされ、「虫売り」という職業があるほど人気がありました。

野生のスズムシは、他の鳴く虫に比べるとやや稀で、生息地は局所的です。

隠れ家となる隙間が多い、湿った場所を好み、河川敷や石積みの棚田などで鳴き声を聞くことができます。

深い藪や隙間に隠れて鳴いていることが多く、音は聞こえますが、姿を見ることはなかなか叶いません。

(文・藤井)

職員の推し虫

な か ま ノミバツタの仲間 ノミバツタ科 Tridactylidae

こんちゅう館職員の“推し虫”を紹介するコーナー。今回の“推し虫”はノミバツタの仲間です。

ノミバツタの仲間は日本で5種見つっています。広島県からは次の2種が発見されています。



ノミバツタ *Xya japonica*

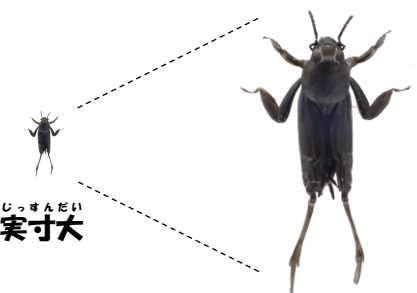
日本国内で広く発見されている種です。畑や河川敷など、湿った砂地に生息します。光沢のある、真っ黒な色の体です。

マミジロノミバツタ *Xya leucophrys*

2020年に新種記載された、河川敷に生息する種です。太田川沿いでよく見かけます。複眼の上に白い眉のような模様があります。

お推し① 日本最小のバツタ

ノミバツタの仲間は、成虫でも体の大きさが4~6mmと、とても小さいです。その小ささから、バツタの中では日本で最小のグループとして知られています。



実寸大

お推し② 未解明の生態

ノミバツタの仲間は、生態がよく分かっていません。断片的に知られている生態には、以下のようなものがあります。

- 砂を積み重ねてドーム状の巣を作る。
- テトリタス（生物の死体や排泄物が分解されてできる有機物）を食べる。
- 前あしと中あしで4足歩行をする。（*多くの昆虫は6足歩行。）
- 水面からジャンプできる。



砂粒を持ち上げて巣をつくるノミバツタ

こうした他のバツタとは違う生態は、興味深いです。

(文・久我)

こんちゅう館フォトギャラリー ~台湾の昆虫~

台湾は日本の最西端の与那国島から約111kmの距離にあり、日本に住む私たちにとって非常に身近な海外の島です。標高の高い山地を除くと、島の大部分は亜熱帯・熱帯の気候で、一年を通して温暖な日が続きます。島の面積は日本の国土の約10分の1でちょうど九州と同じくらいですが、多種多様な生物が生息していて、台湾固有の種も数多く見られます。昆虫愛好家の間では、とても魅力的なスポットの一つです。そんな台湾で、私が実際に見つけた昆虫たちを紹介いたします。



アカヘリオオアオコメツキ *Camposternus mirabilis*
コウチュウ目 コメツキムシ科

光沢のある青い体と前胸の赤いふちどりが非常に美しいコメツキムシの仲間です。2002年に *C. yasukii* として新種記載されましたが、2014年に再度分類が見直され、元々知られていた *C. mirabilis* と同種であることがわかりました。



高雄市の茂林地区は集団で越冬するチョウを観察できるスポットとして世界的に有名です。



タイワンクワワムシ *Mecopoda elongata*
バツタ目 キリギリス科

キリギリスの仲間です。「タイワン」と名がついていますが、東アジアや東南アジアに広く生息し、日本でも南西諸島から本州の一部まで生息しています。こんちゅう館では八重山諸島に生息する系統を繁殖させ、展示しています。



タイワンヒラタクワガタ *Dorcus titanus sika*
コウチュウ目 クワガタムシ科

日本にも生息しているヒラタクワガタの一亜種で、台湾ではごく普通に見られるクワガタムシです。山地にはミヤマヒラタクワガタ (*Dorcus kyanrauensis*) という台湾固有のヒラタクワガタが生息しています。

(文・高野)